

総合討論： 座長 小林 光

●水辺の生物を保全するための総合的防除について

- ・バス、ギル、コイ、カムルチーなど外来種によるアメリカザリガニの捕食量が多いが、ウナギなど外来種の捕食量はあまり多くない。有効な在来種としては、水鳥以外には哺乳類やイシガメナドなどがあげられる。
- ・オオクチバスやギルを捕食種として利用することは影響の深刻さから論外であり、カムルチーについても他動物への影響が詳細に把握されていない中で導入することは避けるべきである。オオクチバス駆除に際してはアメリカザリガニ対策を講ずる必要があり、複数種を対象とする総合的防除を検討する段階にある。

●アメリカザリガニを防除するための活動の継続

- ・侵略的外来種の防除は雑草を取る作業と同じように長期的な取り組みだと思う。
- ・防除活動の成果に応じて補助金を支払うような制度があれば、長期取り組む活動を全国で拡大できると思う。

●特定外来生物の指定について

- ・長年、アメリカザリガニ防除に取り組んできたが、一方で野外放流が後を絶たない現実がある。法規制について行政などに働きかけてほしい。
- ・広がりすぎたものを、現在の特定外来生物法で規制すると弊害が大きい。しかし、海外から新たなアメリカザリガニの改良品種や単為発生するザリガニが輸入されており、これらが野外へ定着し拡大すると深刻な影響が予測される。また、島しょへの侵入も確認されており、在来の貴重な生物への影響が懸念されている。これらについては法規制を急ぐ必要がある。

- ・新たに創設された「指定第二種国内希少野生動植物種」制度のように、全てを規制するのではなく流通を規制することはできないだろうか。

●参加者からの要望

- ・外来種防除など自然再生活動に取り組んでいる。本シンポジウムへ参加すると新たな情報を入手すると同時に活力を得ることができる。シンポジウム開催を継続してほしい。